

# 高品質のバラ生産に高いコスト意識を導入 「新しいスタイル」に挑戦する守山のバラ園。



ベストな栽培環境を徹底追求し  
土壌を使わない栽培法に出会う

深紅の彩りが華やかなシヤブロン・ルージュ。淡い紫の花姿がりりしいシルフ。彩りを競い、美を競いあう見事なバラの花々が、守山市のクニエダ株式会社



さまざまな種類のバラが栽培されている

の温室いつばいに咲いている。栽培面積は約1万平方メートル。採光性や保温性にすぐれたカーテンスクリンや、系統別に温度管理ができる暖房設備などでバラの生育に適した栽培環境を徹底追求。ハウス内の温度や湿度を常時モニタリングしながら、必要に応じて

暖房の制御やカーテンの開閉を全自動で行う先進的な環境制御システムをいち早く採り入れたことで、あまり人手をかけなくても質の高いバラを育てられる。「栽培方法にも独自の工夫を採り入れている」と國枝武夫会長は胸を張る。「土壌で育てると害虫の被害を受けやすく、養液による栽培では生産コストがかさんでしまう。妙案を探る中で、滋賀県の農業技術振興センターが考案した栽培法に着目した。そのままではバラ栽培に向かなかったのが、当社オリジナルの栽培法に改良した」。

それが10年ほど前から採用しているプランターによる「少量培地耕システム」だ。土壌改良剤として利用が広がるココピート(コナツツ果実を破砕したファイバー状の天然素材)を培地として、養分の入った養液を加えて栽培している。この栽培法を導入したことで作業のマニユ

アル化が可能になり、生産コストを大きく低減できるようになったという。

先代が築いたバラ栽培の礎に

先進地域で学んだ生産法を加える

こういった先進的な経営は、2010年の日本フラワー・オブ・ザ・イヤ―最優秀賞受賞や13年の全国農業コンクール名誉賞受賞にもつながった。

「バラの生産に徹底したコスト意識を持ち込み、バラづくりが収益性のある事業だと発信したい。それが国際競争という厳しい環境にいる全国の生産者さんの励みになればと願う」。國枝会長があらゆる手法を使って生産コスト低減に努めるのは、こんな思いからだ。

國枝会長の父・栄一氏は、守山で1967年頃からバラの生産を手掛け、丹精込めた栽培法で同社の前身である國枝バラ園の名を全国に知らしめた人物。若いうち



先進的な環境制御システムを取り入れた栽培用ハウス



バラを種類、大きさで選別し梱包、出荷する作業風景

品種を選択。日本の気候や嗜好との相性を見るため2年ほど試験栽培したうえで、全国のバラ生産者へ紹介する。

「ブリーダーを兼ねる生産者は当社が国内初なので、栽培法を熟知すればこそできるアドバイスが歓迎されることが多い。アバランチエ+をはじめバラ愛好家に人気があるLEX+の品種を国内に広めてきたと自負する」。

## 潜在購買層を掘り起こすための「次世代型ファーマー」構想

嗜好の変化などによって国内のバラ切り花の販売量は減り続けている。アフリカ諸国からの安い輸入バラとの競争も年々激しくなり、国内の切り花生産者や育種家はそれぞれの立場から国産バラの販売量回復と懸命に向き合う。

こんな環境の中で國枝会長が構想するのは、国内の生産者がターゲットとしていなかった購買層の掘り起こしだ。「人口の3割ほどの富裕層を意識した高級

品種づくりを重視するあまり、これまで残り7割の層をフォローできていなかった。この層に買ってもらえるバラを増やせば、必ず業界は元氣を取り戻せる。

そのためには、現在の国産バラの生産コストを相当低くしなければならぬ。さまざまな経営努力で当社のコストは低くなっているが、まだ不十分だ」。

いま以上に生産コストを下げる道は栽培規模の拡大と、1年中いつでも出荷できる周年栽培の実現だ。國枝会長はそう考え、栽培面積を3倍ほどに広げたい。農業先進国オランダから最先端栽培環境「次世代型ファーマー」を導入する計画だ。高さ7メートルのガラス製ハウス棟を整備し、徹底したコンピューター統合管理による生産性向上に取り組む。周年栽培を可能にし、年間を通して咲くバラを観光に活用する構想も描く。

今年3月の法人化により、その夢にぐっと近づいた。

からバラ栽培を手伝った國枝会長は、当時先進地域だった神奈川県へ足しげく通って学んだ先端技術や、欧米視察で目にした先進のハウス設備をどんどん採り入れることで、同社を「常に時代の一步先を行く生産者」へと高め続けた。「栽培環境の集中管理」という21世紀型システムを70年代に導入したほど先見性を持つ人だ。

オランダの種苗会社と契約して  
日本での独占販売権を獲得

その先見性がとりわけ発揮されたのは、オランダの名高い種苗会社LEX+社の日本代理店になったことだろう。「アメリカの知人を介しての縁で、思いが

### Profile

#### クニエダ株式会社

- 本社/守山市十二里町長田531
- 設立/2015年
- 資本金/500万円
- 従業員数/20名
- 事業内容/切り花の生産販売、苗の販売、オランダLEX+の日本代理店

<http://kunedabaraen.jp/>



代表取締役会長  
國枝 武夫氏

### Voice

輸入ものとの競合など厳しい環境の中でも、元氣のある若いバラ生産者が出てきてほしいと考えています。その手本となるべく当社が挑戦する「次世代型ファーマー」が、業界の未来の扉を開くと信じています。